

## 奈良・平城京二条大路・

### 左京二条二坊十二坪

- 1 所在地 奈良市法華寺町二六六番地の一他
- 2 調査期間 一九八二年（昭57）五月～十二月
- 3 発掘機関 奈良市水道局庁舎建設予定地発掘調査会
- 4 調査担当者 西崎卓哉・中井 公・篠原豊一
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（奈良）

本調査地は、平城京の条坊では二条大路と左京二条二坊十二坪の南西の一画に相当する。付近は、平城京域の通常の例に違わず、条坊の痕跡をよく水田畦畔に残しており、周辺の小字名は「五双田」である。調査は奈良市水道局庁舎建設に先立ち実施したもので、発掘面積は約二一〇〇㎡である。

調査の結果、検出した主な遺構には二条大路とその

北側溝、築地、建物、柵、井戸、池、溝などがある。発掘区からは膨大な量の遺物が出土し、その総量は遺物収納箱約八〇〇箱に及ぶ。築地により周囲を画される十二坪は、建物などの配置から、坪内を分割することなく一町全体を利用していたことがわかり、遺構の変遷は五期に区分することができる。一・二期には坪中央に総柱の大型建物がめぐり、坪南辺にはその付属棟かと考えられる建物が整然と建ち並ぶ。三・四期には坪中央の大型建物はなくなるが、柵で画される南辺には建物が依然として建てられている。五期になると、建物は小型化し坪全体に散在するようになる。

さて、木簡はこれらの遺構のうち二条大路北側溝、十二坪内部の井戸SE一〇から計四一点出土した。このうち二条大路北側溝は、平城宮南面ではその外濠をもかねる水路であるが、今回の発掘区内では幅三・〇m内外、深さ一・〇m内外の素掘りの溝となる。東西二五m分を検出した。溝には少なくとも一回の改修の跡がみられるが、特に護岸のための施設はない。そのためか、大路側へ大きく氾濫し路面が浸蝕されている。木簡は、この浸蝕された部分の堆積土中から出土したものと、その後改修された溝内の堆積土から出土したものに分けることができる。木簡取り上げの際には前者をA区出土、後者をB区出土と表示し取り上げた。また、二条大路の南北両側溝は、付近の地形から東から西へ向う水流が考えられ、さらに、調査地のすぐ西を南流する現在の菟川の位置が大きくは変わって

いないとするならば、今回出土した木簡が調査地より西側で廃棄されたとは考えられない。このことから、木簡は十二坪、あるいはその東側の十三坪で廃棄されたとすることができよう。一方、SE一〇は、径約一・二m、深さ約一・六mの掘形をもつ井戸。井戸枠は残存しない。木簡一点とともに、土器編年の平城宮Ⅲ期に相当する土器が出土した。

なお、今回の調査で出土した他の遺物の中で、特徴的なものとして、三彩平瓦、「相撲所」「相撲」「左相撲」「左土」「上番」などと墨書された土器がある。

# 8 木簡の釈文・内容

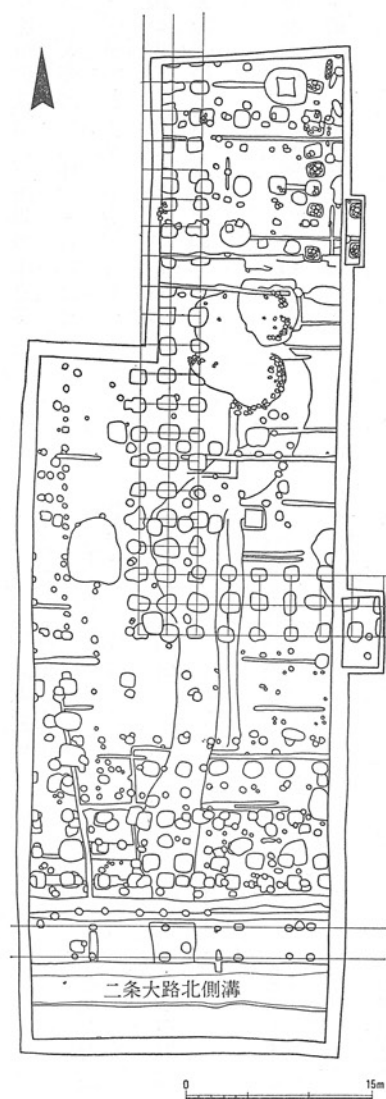
## 二条大路北側溝A区

- (1) ・×猪六一斗二升」  
・×十月」  
(75)×18×4 019
- (2) ・×□□三具」  
・×□□ □□」  
(92)×23×2 019
- (3) 「備中國英賀郡搗栗一斗」  
90×21×5 032
- (4) □□□」  
□□□」  
天□□十月十四日」  
(160)×30×6 039
- (5) ・請 布七段 買錢□×

## 二条大路北側溝B区

- (6) 「赤穂郡大原×  
〔桃カ〕〔文カ〕  
子二升八□  
(126)×22×3 081
- (7) ・八二八十 □十 □十  
□□□□□□□□ □□□□  
〔カ〕  
(219)×(9)×5 081
- (8) ・「徭□□□  
□□ □□  
128×(15)×2 081
- (9) 「文選卷第廿×  
(90)×(13)×3 081
- (10) ・「美濃國武義郡稻□×  
・「斗 □□七年×  
〔天平カ〕  
(156)×25×5 039
- (11) ・「遠江國長上郡煮塩年魚三斗八升  
天平廿年  
(156)×19×4 032
- (12) 備前國□×  
(71)×21×5 039
- (13) □□□田□□  
(96)×24×6 019
- (14) 拾×  
(61)×18×3 019

- (15) 「山々五戸貢井腊」  
170×28×5 031
- (16) 「井手カ」  
×□□郷物マ□万呂□×  
(70)×14×2 081
- (17) ×□□□御司  
×□□繼謹啓  
[青カ]麻呂  
(114)×30×3 081
- (18) ×□□塩三斗×  
×□□等□□×  
(40)×17×4 081
- (19) 「淡路國津名郡安乎郷人夫」  
戸主磯秦僧一斗五升同  
廣山三斗戸主私マ角五升  
「合一俵 天平廿年九月」  
172×32×4 033
- (20) ×日解 今□×  
×斗 七日×  
(123)×13×4 081
- (21) ×西戸□[海カ]マ  
[物錢カ]皆万養□□×  
(120)×17×4 081
- (22) ×□□[板野カ]郡少嶋郷白□  
[米カ]×  
(118)×30×7 081
- (23) 「左馬寮×」  
(52)×(19)×3 019
- (24) 「能諸諸 久久」



平城京二条二坊十二坪構配置図

・「天天」  
(173)×25×4 032

井戸SEIO

(25) 「越前国珠郡月里」  
[次カ]  
「庸舟木マ申 六斗」  
173×21×4 011

遠江、備中、淡路、阿波などからの貢進物付札のうち年紀のあるものは、いずれも天平廿年のもの。㊦は今回出土した木簡のうち唯一官司名を記したものである。他に墨痕が認められるが、判読不能なもの十五点がある。なお、木簡解説にあたっては奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室の御指導と御協力を得た。記して感謝いたします。

(西崎卓哉)